

教育現場における伝統文化「フラ」の学び

安住 陽子*

*東北大学大学院教育情報学研究部博士研究員

要旨：本論文は、伝統文化の教育的な意味を問い直すため、フラの学び手である女子高校生の発話に焦点をあて、教育現場の伝統文化学習において何が学ばれているのかを明らかにした研究である。調査は、教授場面における参与観察とインフォーマル・オンサイド・インタビューを行った。分析は、SCAT (大谷2008)を用い、データからカテゴリーを生成した(北村2005)。教育現場における「フラ」の学びでは、女子高校生のフラの学びに関する要素が暫定的ではあるが、「身体性」「学習性」「感情の吐露」によって構成されていることが明らかになった。この事例は、外国の伝統文化であるフラから学んだことを我が国の教育目標である「我が国と郷土を愛する」ということに変換できた事例の1つとなり、日本における学校教育の限られた時間内でのフラの学びも可能であることが明らかとなった。

キーワード：フラ, 学び, 伝統文化, 学校教育, 質的分析

1. はじめに

平成18年12月15日に教育基本法が改定され、第2条5号規定に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」という教育目標が掲げられた。ここには、①我が国と郷土を愛する態度を養うこと、②外国の文化の理解と他国を尊重する態度を養うこと、③国際社会の平和と発展に寄与するという3点が示されており、それを「伝統と文化」を通して学ぶことが求められている。特に、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」という文言が今回規定された部分であり、「伝統と文化」というものをどのように扱うかが、現在課題となっている。

文部科学省による高等学校指導要領の改定のポイント(文部科学省2011a)では、その改善事項の1つとして、伝統や文化に関する教育の充実が挙げられている。そこには、世界史における日本史の扱い、文化の学習の充実、宗教に関する学習を充実、古典、武道、伝統音楽、美術文化、衣食住の歴史や文化に関する学習を充実と、内容は社会科、国語科、保健体育科、芸術科、家庭科にわたるものとなっている。このように高等学校においては、各教科において伝

統文化に触れる教育実践をする。

しかしながら、その教育現場では「伝統と文化」教育の試行錯誤が続いており、直接的な結果がすぐに見えない「伝統と文化」の学びの意義は議論が続いている(伊藤2012)。よって、教育目標を達成するためには、「伝統と文化」を通して何を学ぶことができるのかを認識することが必要である。こうした状況をふまえ、「伝統と文化」の教育的意味を問い直すことができるのなら、子どもたちが「伝統と文化」を通して学ぶ力を更に広げる議論が可能となる。フラという伝統文化は、身体言語であり、かつ日常生活のあり方を考えさせ、規範する役割を持つ。その点から筆者は、フラが一つの教育的な行為であるととらえており、フラを高等学校の授業で取り上げる意味を見出す。

そこで、学校教育の現場でフラが扱われた場合、どのような教育的意味があるのかを検証する。

2. 本研究の実施背景

B市にあるA高等学校創立105周年を迎える2010年10月1日、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市にA高等学校ハワイ現地校が開校した。生徒たちは、現地の一般家庭にホームステイをしながら English as a Second Language (語学研修)、Social

Studies (地域研修)、Sports & Activities (スポーツ) の3教科を中心に学ぶ。期間は、2週間から4週間と所属コースにより選択する。本調査時は、東日本大震災(2011年3月11日)による校舎再建、教室不足の影響で、Gコース2学年の研修を例年4週間の予定から2ヵ月半に変更し、2011年4月25日～7月8日の日程で行った。また、費用に関しても現地ホストファミリーの支援によりホームステイ代は無償となった。そして震災後の子どもたちへの影響(PTSD)も考え、メンタルケアも含まれたプログラムが組まれた。引率は筆者が行った。

3. A 高等学校ハワイ現地校のカリキュラム

A 高等学校ハワイ現地校では、従来の「語学研修」だけではなく、「語学研修」と地域の特性を活かした「地域研修」を通して異文化理解を礎に言語や文化、自然環境を実践的に学ぶ(2011年度時点)。

「地域研修」では、多角的な視野に基づいたクリティカルシンキングをもって、ハワイの歴史や文化を学習する。その中で、問題提起をし、情報収集・分析能力を高め、多面的で総合的なものの見方のできるグローバルISTを育成することが目的である。これは、新学習指導要領(地理歴史編)とA高等学校の教育目標の1つである「国際理解教育の推進」に基づいて、社会科の教諭であった筆者が構成した。高等学校学習指導要領解説地理歴史編(文部科学省2011b)によると、高校社会科においては、「世界史、日本史、地理の相互の関連を重視」「課題を探究する学習を柱とする言語活動の重視」「地図や年表などさまざまな資料を活用した学習の重視」の変更点があげられている。そこでハワイ現地校では知識の習得だけでなく、現地調査を通して、そこにいたるまでの過程、話し合いやコミュニケーションのとり方など、社会性を学び、また自らテーマを設定し、主体的、協同的な学習姿勢を養い、自分の言葉で表現をする。これらが、学習の価値や意義を見出すことにつながると考え、カリキュラム構成をした。

4. 本研究での目的

本研究では、ハワイ研修時の女子高校生におけるフラの学習観を提示する。フラは、“Hawai'i is hula, hula is Hawai'i”⁽²¹⁾ と言われるほどのハワイにおける代表的な伝統文化である。

5. 対象

女子高校生のハワイ研修時のフラ教授の場における参与観察と、そこでのインフォーマル・オンサイド・インタビューでの発話を対象とする。本研究で対象とした生徒は、クラスのリーダーとして積極的に研修に参加していた生徒であり、言語活動が活発であったことから選定をした。

2ヵ月半の研修期間の中で、フラの練習にあてた時間は、8時間。披露の場は2回であった。この披露は、2ヵ月半の間お世話になった方々へ感謝を示すことを目的とする学習発表になるよう計画をたてた。尚、このフラレッスンは生徒必修のプログラムである。

本研究では、8時間のフラレッスン後と2回のフラの発表後に各10分程度行われたインフォーマル・オンサイド・インタビューを文字化したうち、フラの学びについて述べられた部分を分析対象としている。

習った曲は「カイマナヒラ」である。現地クムフラ(フラの先生)からカピオラニパークで「カイマナヒラ」を学んだが、この場所は曲名でもある「カイマナヒラ(ダイヤモンドヘッド)」がよく見える場所でのレッスンであった。「場」と「曲」との一致がなされている。

レッスンではクムフラから「スマイル」を保つことを終始指導される。このレッスンはプロジェクトケアラホウ⁽²²⁾の企画によるものであり、震災の影響を受けた生徒たちへのハワイアンカルチャーによる精神的なトリートメントのうちの1つでもあった。

6. フラを研究対象とする意義

本研究での関心は、フラそのものにあるわけではなく、フラという切り口における伝統文化とその学びとのかかわりにある。日本において、いわゆる伝統芸能というと、歌舞伎、日本舞踊、神楽などをさし、一般的な日常生活とはかけ離れており、踊り手も限られる。しかし、ハワイにおけるフラは、舞踊がハワイ人の日常に入り込んでおり、多くの役割を持っている。フラという伝統文化が日常生活のあり方を考えさせ、規範する面からも筆者は、フラが一つの教育的な行為であるととらえている。日常生活の現実には、人との関わりや、自然との関わり、文化や社会の組織・制度との関わりなどすべてが含ま

れており、そこで生活することによって、人はすでに、教育的な働きかけを受けたり、与えたりしているのである。そのようにとらえれば、「生活現実」は常に教育的現実」(千葉1991:142)なのであり、このことをフラという伝統文化が実践しているといえる。そのような伝統文化が身近な社会の舞踊であるフラの分析を通して、「何を学んでいるのか」を見つけることが、日本における「伝統と文化」の教授の解明にもつながる。

7. 研究方法

参与観察やインタビューによって得られたデータは、筆者自身によりトランスクリプト(テープ起こし)を行い、テキスト化されたあと、SCAT(大谷2008a)による質的分析法により分析された。この際、対象者の名前や場所などの固有名詞は、プライバシー保護のため、イニシャルに変えた。

SCATは、4つのステップにより分析がなされる。これは、観察記録や面接記録などの言語データをセグメント化し、そのそれぞれに

- ① データの着目すべき語句
- ② それを言いかえるための語句
- ③ それを説明するための語句
- ④ そこから浮き上がるテーマ・構成概念の順にコードを考案して、付加していく。

その後、④を紡ぎ合わせ、ストーリーラインと理論を記述する手続きからなる分析法である(大谷2008a)。この手法の意義は、大谷が言うように、分析手続きの明示化、分析諸段階への円滑な誘導、分析過程の省察可能性と半証可能性の増大、理論的コーディングと質的データ分析の統合である。とくに、「一つだけのケースのデータ(中略)などの、比較的小規模の質的データの分析にも有効」(大谷2011:155)なことから、本研究のようなフラの学びのケースをデータにする場合に、適切であると考えた。尚、最終の階層カテゴリー化は、北村(2005)の方法に依拠する。

8. 分析過程

4ページにわたる女子高校生のフラの学びに関するSCATデータ(表2~5)から「身体的な気付き」「学習の継続」「一体感の再現」「女性らしさへのあこがれ」「幸せの分配」という5つのサブカテ

(表1) 女子高校生のフラの学びに関する発話の階層的カテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー	主要な意味単位
身体性	身体的気付き	身体的なとまどい、本物の笑顔、腰以外への身体の気付き
学習性	学習の継続	練習の必要性和効果、一心に、学びあいの再現、積み重ね
	一体感の再現	
感情の吐露	女性らしさへの憧れ	感動を伝える、動作の美しさ、幸福感、御礼、心の表象
	幸せの配分	

ゴリーが分類できた。

これらは、最終的に「身体性」「学習性」「感情の吐露」という3つのカテゴリー(表1)に分類された。

以下、生徒のデータをたどりながら、各カテゴリーの主要な要素ごとに分析過程を詳述する。

8-1 身体性

このカテゴリーは、「身体的気付き」という1つのサブカテゴリーからなり、フラを踊ることで知った身体の動きを説明するカテゴリーとして作成された。

生徒Kはフラを安易な踊りと認識していたが、フラを踊ることによって、その認識を改め、次のように述べる。

「今日はカピオラニ公園で初めてフラをしました。フラは全世代から愛されていて、私みたいな踊り嫌いな人でも気軽に楽しめるものだと思います。パーティなどでフラを見ているととても表情が豊かで、動きも滑らかなので簡単だと思っていたけれど実際はその逆でものすごく! 難しかったです…。でも難しかったけれど、自然に笑顔になれてフラの力ってすごいなと思いました。」

また、生徒Sは身体的な戸惑いに触れつつ、踊ることによって笑顔になれる自分を次のように説明する。

「腰を振ると腕をなめらかに動かすのが難しかった。フラを踊っている人は、みんな作り笑顔だと思っていたが、実際に自分で、フラをやってみると自然と笑みが零れた。」

踊ることでしか気付くことのできない身体性があり、「身体的気付き」を肯定していることが認められる。

8-2 学習性

このカテゴリーは、「学習の継続」「一体感の再現」の2つのサブカテゴリーからなり、練習するものの、思い通りに踊ることができない困難性とその一方でクラスの仲間との学びの継続希望を説明するカテゴリーとして作成された。

Sは、踊ることによる幸福感にも触れ、次のように述べる。

「フラを踊っている人は、みんな作り笑顔だと思っていたが、実際に自分で、フラをやってみると自然と笑みが零れた。フラは私たちを幸せにしてくれる力があると思う。」

またSは、エアロビクスと比較し、フラの継続的な学習の希望に触れる。

「部活を引退したら、フラの教室に通って趣味としてフラをやりたい。日本にいたときはまったく興味がなかったが、いまはフラに魅了されている。私たちは体育の授業でエアロビクスをやっているが、それよりもフラをやりたい。」

生徒Sは、フラの楽しさに触れ、クラスの生徒と再び踊りたいという学習の継続希望を次のように述べる。

「私は腰痛歴5年目で、今日フラをやっていると痛みがあった。でも痛みを忘れられるほどに笑えたのは、フラが楽しかったから。もう一度、クラスみんなで一緒にフラをしたい。」

生徒KとSは、レッスンを重ねるたびに感じる、自身の成長に触れ、更なる意欲を次のように説明する。

「まだまだ下手くそだけれども、昨日よりは少し成長していると感じることができました。膝を曲げること、手をしっかりと伸ばすこと、そしてスマイル!一つずつ意識しながら練習をしたいです。」(K)

「午後はフラの練習をしました。踊りは大変だけれども自分の精一杯の力を出して踊り、そしてまだまだ自分の顔の表情が固いので、笑顔で踊れるようにしたいです。」(S)

8-3 感情の吐露

このカテゴリーは、「女性らしさへの憧れ」「幸せの分配」という2つのサブカテゴリーからなり、フラを学ぶ女子生徒の心情とこの研修状況を説明するカテゴリーとして作成された。

Kは、フラを踊る女性へのあこがれに触れ、次のように述べる。

「難しかったけれど、自然に笑顔になれてフラの力ってすごいなと思いました。フラをしている女性は魅力的で綺麗でした。もしこれから先フラをしたいと思ったら、ぜひしてみたいと思います。そして陽子先生のフラの動きがとても綺麗でした。」

そして、自分たちのフラで相手を喜ばせることについて触れて、生徒Kは次のように述べる。

「私たちのフラを見てみんながハッピーな気持ちになってくれることを願っています。」

「パーティでは、今まで研修してきたフラを踊りました。緊張もしたけど、これまでの感謝の気持ちを込めて、一所懸命踊りました。踊っているときは、無我夢中で分からなかったけど、踊り終わったら、自然に笑顔になっていたのに気付きました。フラってすごい。フラは、難しいし、まだまだできないけれど、今回踊ることができてよかったです。ホストファミリーにも褒められました。みんなで練習して、みんなで踊ったことがすごく思い出に残った。みんなに私たちの感謝の気持ちが伝わってればいいな。」

無償で自分たちを2ヵ月半受け入れてくれたホストファミリーへの感謝をフラで表したいという生徒

たちの思いがフラの研修を通して見受けられた。そして生徒たちは、練習することで進歩することを知り、初めてフラを学んだときよりも、身体的な気付きを拡張させていく。そして、その身体的な気付きが女性らしさの憧れや学習の継続や再現につながる。そして最後の発表の際には、フラが持つ特徴である身体言語として、感情が吐露される形となり提示された。

9. 考察 教育現場でフラが扱われた場合

本研究で抽出された主要な意味単位は「身体的気付き」「学習の継続」「一体感の再現」「女性らしさへの憧れ」「幸せの配分」というサブカテゴリーに分類された。最終的に女子高校生のフラの学びに関する要素は暫定的ではあるが、「身体性」「学習性」「感情の吐露」によって構成されていることが明らかになった。

ほとんどの生徒たちは、フラについてもともと関心がなかったが、ハワイ研修に参加するにあたり、気をとめるようになる。2ヵ月半の研修中には、フラを鑑賞する機会が4度あった。またホストファミリーもフラを踊る環境がある生活の中で、フラを習わせてもらっていた生徒もあり、フラがハワイにとっての文化の一つであることを理解し、身近であることを体感していく。

8時間という短いレッスン時間の間に、まず、身体的な所作を習う。腰の動きにとらわれる身体的戸惑いがのちに身体的な気付きとなり、腕やひざの動きの関心へと広がり、最終的にはスマイルへの試みへと発展する。また、フラには意味があり、物語があるものだと分かっているが、身体が動かない。そこから踊ることができる人への賞賛が生まれ、踊ることへ努力するようになる。そして、日々の練習の中から身体の動きのスムーズさを感じ、成長を確認するという一連の動きを見せる。そして、作り笑顔だと思っていた表情の動きが、自然なものであることに気付く。

最後に、目標としてきたフラの発表までのレッスンを通して、「感謝」を示す一つの形、感情吐露の一つの方法としてフラがあることに気付く。この発表の「場」において、身体言語としてのフラが機能した。そして感情の吐露が成功した背景にあったのは、ホストファミリーに感謝を示すという具体的な

目標であった。まさに2ヵ月半の「擬似的家族」への感謝である。「家族性」と言う要素が生徒たちに教育的な意味をもたせたと考えられる。

このように、フラという踊りを学ぶことを通して、相手の文化に親しみ、外国の文化の理解と他国を尊重し、感謝を示すという態度を養うことが本研究のフラの学びから提示できたといえる。

この研修後、フラに興味をもった生徒Rが筆者にレポートを提出してきた。内容は、フラの弾圧から復興までの歴史がまとめられていた。このレポートの最後にはこのように記されていた。これは、本考察のためのエピソードとして取り上げる。

以下生徒Rのレポートより抜粋する。

(生徒R レポート抜粋)

フラがそうであったように、伝統文化は、人々の力で維持していかないと、簡単に滅びてしまう。「フラの禁止から復興までの歴史」、これは、東日本大震災で消えかけている伝統文化を守るお手本でもある。

3月11日、東日本大震災は、地域の共同体を壊した。今、私たちが生きている地域に息づいてきた伝統文化が壊れようとしている。それを守るために私たちはどうするべきなのだろうか。それにはまず、行政、地方団体、そして個人がそれぞれに行動していかなければならない。(中略)「フラ」にあてはめれば、行政はカラカウア王、地方団体はマイキ・アイウ・レイクを中心とする「ハーラウ・フラ・オ・マイキ」、さらに最後の個人とは伝統文化を愛する国民全体を指す。この3つを柱として支えていけば、フラが復興したように、東北の伝統文化も壊れずに続いていくのではないだろうか。

実際、祭りの復活という形で伝統文化の復興は確実に進みつつある。(中略)仙台市では東北六魂祭が行われた。私も見に行ったが、とても盛大な催しとなっており、伝統文化を愛する東北の人々の熱い想いが感じられた。伝統文化とは、私たちにとってかけがえの無いものであり、それはフラに尽力した人々の姿を調べたことによって、より強く実感させられた。

その意味でもこのレポートを書くことは私にとってとても有意義だった。

この生徒のレポートから明らかなことは、ハワイでのフラの学びがその「場」での感情の吐露だけに終わらず、ハワイで学び得たことを自身に起こった出来事に置き換えている点である。外国の伝統文化であるフラから学んだことを我が国の教育目標である「我が国と郷土を愛する」ということに変換できた事例の1つとなった。

10. 結論

本研究では、伝統文化の教育的な意味を問い直すため、女子高校生のフラの学習観を提示し、教育現場における伝統文化では何が学ばれているのかを明らかにすることが目的であった。

フラは「家族性」が強く、教育的意味を含む伝統文化である(安住2013)。フラの学びにおいて、「血族的家族」「擬似的家族」は大きな役割を持っている(安住2013)。それは、歴史的文化的にも「'ohana(ハワイ語:家族の意)」という概念が強いからである。西洋との接触以前のハワイでは、マナ⁽²³⁾を高めるために近親婚が理想とされていた。また他人であるクムフラと生徒は「親子」という「擬似的家族性」を用いて、フラという踊りを学ぶことを通してその関係性を築いていく。フラの学校「ハーラウ」では構成員を家族に例え、運営される。フラがこのように「家族性」が強い伝統文化であるのは、次のことから説明ができる。「太古の時代には、オハナ'ohanaは、人々の生活を左右する統一的な力であった」(スタグナー2012:16)という。また、フラにおける「カヒコ⁽²⁴⁾の指導や踊りにおけるミスは、先祖を軽んじることになる。正しく踊ることは、正当で最高の(先祖への)尊敬の証である」(スタグナー2012:46)とされていた。よって、ハワイ自体が家族や祖先ということが常に強調される「家族」を中心に据えた文化であると考えてよい。

そして、本研究で示したとおり、時間の限られた学校教育の中でも、フラを用いて教育的意味を見出すことは十分可能である。特記すべきことは「擬似的家族性」を持つホストファミリーへの御礼という目的が、より生徒たちの学びの意欲を奮起させたということだ。また、フラの学びに関するエピソードとして取り上げた生徒のレポートから明らかなように、外国の伝統文化であるフラから学んだことを我が国の教育目標である「我が国と郷土を愛する」と

いうことに変換できた事例の1つを示すことができた。

つまり、教育という枠組みの中で伝統文化を学ぶ際、必ずしも日本の伝統文化に限定されることはない、ということがいえる。その1つの理由として、踊りや所作を学ぶだけではなく、学び手がその世界の中で、何らかの課題を見つけ、その関わり方を学び、拡張していくことに伝統文化の学びの意味を見出すことができる点があげられるからだ。

筆者は、その社会的集団に共有する時間的連続性の中で育まれた「家族性」が文化的実践を通して学ばれることに、伝統文化の学びを確認している(安住2013)。「家族性」は、血族的家族、擬似的家族を問わず、多くの学びの場面で抽出され、様々な要素に内在される基礎となるものであった(安住2013)。

よって教育基本法にある「伝統文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛すること」という目標を達成するために指導的な役割を果たす要素こそが「家族性」であると捉えることが可能である。

また、学校教育のなかでフラの学習が可能である点も提示することができた。ここでも「擬似的家族性」が学びの中心となり、生徒は継承することの意味を再構築している。ここで用いた「擬似的家族」を暫定的ではあるが、「血族的関係のない人びとの間に社会的、同情的に類似の感情を互いに認識している関係性」と概念化する。普遍的に適用可能な家族の定義が存在しない中(松園1987:123)、そうすることで、伝統文化の学びに必要なとされる要素である「家族性」が明らかになる。

本研究で問いとして提示してきた伝統文化の学びには、その行為自体(本研究ではフラ)が出来るようになることではなく、教え手と学び手が共に作り、共有する世界観において、そこに立ち表れてくる問題に対してどのように関わるかの認識活動として「家族性」を中心とした教育的な意味を見出すことができる。こうした点において、フラの教えと学びは、伝統文化の教育の可能性についての1つの視座を提供できたと捉えることができる。

本研究は、日本の学校教育の「場」において、「家族性」を中心におくことにより限られた時間で「伝統と文化」を追求する指導実践の可能性も示した。

しかしながら、本研究には課題も残される。

第1に、質的研究の客観性という問題である。方法論的妥当性や信頼性を安定させるためにも、更なるインタビューが求められる。

第2にデータ分析とカテゴリー化の妥当性も不安定である。よって、更なる議論が求められる。

第3に、本研究で得られた知見が、日本の教育現場において更なる可能性をものかどうか、そして、これが伝統文化の学びとして一般化できるかどうか、に関して更なる研究の蓄積が求められる。

注

(注1) 20世紀後半のハワイを代表するクムフラであるマイキ・アイウ・レイクが残した言葉である。レイクは、フラを「私たちの見るもの、聴くもの、臭うもの、味わうもの、触れるもの、感じるものすべてを表現するハワイの踊り」と述べた。

(注2) ハワイ州の11歳から18歳までの精神的に傷ついた女子を保護する目的で作られたメンタルケアプロジェクトである。今回震災で精神的ショックを受けている女子生徒たちにハワイアンカルチャーによるケアを行った。

(注3) 目には見えない超自然的な力で、様々なものに宿ると信じられている。特にマナは骨や髪の毛に多く宿ると考えられており、カメハメハの死後、その骨はカフナ(僧)によって隠された。また、フラダンサーの髪の毛もマナが宿っていると考えられ、自ら切ることは許されず、クムフラが切るのが伝統的である。そして、マナは接触することによって、電流のように移るものである。

(注4) 古典フラ、正道、基礎という意。使用言語はハワイ語に限られており、詩・衣装・楽器・表情において現代フラ(アウアナ)とは異なる。「メロディーを奏でる楽器はほとんど使われず、楽器の中心は、リズムを刻む打楽器」(塩谷2004)であり、「むしろお経や祝詞に近い」(塩谷2004)ものであった。

文献

1. 安住陽子 2013 伝統文化「フラ」をめぐる教えと学びに関する実証的研究 東北大学博士学位請求論文。

2. 千葉泰爾 1991 教育的現実と教育的行為:142-155 教育の本質と目的 福村出版。

3. 伊藤裕之 2012 中学校で武道必修化: 礼節を尊重 心磨く相撲 河北新報(2012,12,12)。

4. 北村勝朗・齋藤 茂・永山貴洋 2005 優れた指導者はいかにして選手とチームのパフォーマンスを高めるのか?: 質的分析によるエキスパート高等学校サッカー指導者のコーチング・メンタルモデルの構築: 17-28 スポーツ心理学研究32(1)。

5. 松園万亀雄 1987 婚姻: 119-124 祖父江孝男他(編)改訂文化人類学事典 ぎょうせい。

6. 文部科学省 2011a 高等学校学習指導要領の改訂のポイント。

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_001.pdf

7. 文部科学省 2011b 平成22年高等学校学習指導要領解説 地理歴史編: 3-4。

8. 大谷尚 2008a 4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCATの提案: 着しやすく小規模データに適用可能な理論化の手続き: 27-48 名古屋大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)54(2)。

9. 大谷尚 2008b 質的研究とは何か: 教育テクノロジー研究のいっそうの拡張をめざして: 340-354 教育システム情報学会誌25(3)。

10. 大谷尚 2011 質的研究シリーズ SCAT: Steps for Coding and Theorization: 明示の手続きで着しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法: 155-160 感性工学10(3)。

11. 塩谷亨 2004 フラとハワイ語 後藤明他(編) ハワイ研究への招待: 47-57 関西学院出版会。

12. スタグナー・W・イシュマル 野沢佳奈(訳) 2012 クムフラ: ルーツと支脈 アイランドヘリテージ。

(表2) 教育現場でフラが扱われた場合の発話 S C A Tデータ資料

2011年6月16日 10:00-12:00 A 高等学校 2 学年 ハワイ研修

オアフ島カピオラニパークにて、「カイマナヒラ」を学ぶ。実際にカイマナヒラ(ダイヤモンドヘッド)を眺めながらの学習であった。

	テキスト	注目すべき語句	言い換え	テキスト外概念	テーマ	疑問・課題
S	今日はカピオラニ公園でフラを習った。私は今日をととても楽しみにしていた。腰を振ると腕をなめらかに動かすのが難しかった。フラを踊っている人は、みんな作り笑顔だと思っていたが、実際に自分で、フラをやってみると自然と笑みが零れた。フラは私たちを幸せにしてくれる力があると思う。また一つ一つの動作に意味があることに驚いた。多くの動作の意味を知って、踊りの物語が理解できるようになりたい。それから、部活を引退したら、フラの教室に通って趣味としてフラをやりたい。日本にいたときはまったく興味がなかったが、いまはフラに魅了されている。私たちは体育の授業でエアロビクスをやっているが、それよりもフラをやりたい。私は腰痛歴5年目で、今日フラをやっているときも痛みがあった。でも痛みを忘れられるほどに笑えたのは、フラが楽しかったから。もう一度、クラスみんなで一緒にフラをしたい。	腰を振ると腕をなめらかに動かすのが難しかった	ぎこちない動き	自然に動かすことの難しさ	身体的とまどい	腰と手だけ?
		作り笑顔	ニセモノの笑顔	演技		
		私たちを幸せにしてくれる力がある	魅力がある	幸福感	学習の継続性	どんな幸せ?
		趣味としてフラをやりたい	余暇におけるフラ	学習の継続		趣味とはどの程度?
		いまはフラに魅了	強い興味関心	実感		どんなふう
		もう一度、クラスの人と一緒にフラをしたい。	クラスメイトとの交わり	学びあいの再現	一体感の再現	

ストーリーライン	フラには興味がなく、ダンサーの笑顔も演技と思っていた S は、フラを学んだことによって、これまでのフラ観を払拭する。レッスン後には、学習の継続性と学習の再現を希望する。
理論記述	レッスンにおける学習者の身体的な気付きが、学習の継続や再現につながる。

(表3) 教育現場でフラが扱われた場合の発話 S C A Tデータ資料

2011年6月16日 10:00-12:00 A 高等学校 2学年 ハワイ研修

オアフ島カピオラニパークにて、「カイマナヒラ」を学ぶ。実際にカイマナヒラ(ダイヤモンドヘッド)を眺めながらの学習であった。

	テキスト	注目すべき語句	言い換え	テキスト外概念	テーマ	疑問・課題
K	今日はカピオラニ公園で初めてフラをしました。フラは全世代から愛されていて、私みたいな踊り嫌いな人でも気軽に楽しめるものだと思います。パーティなどでフラを見ているととても表情が豊かで、動きも滑らかなので簡単だと思っていたけれど実際はその逆でものすごく!難しかったです…。でも難しかったけれど、自然に笑顔になれてフラの力ってすごいなと思いました。フラをしている女性は魅力的で綺麗でした!もしこれから先フラをしたいと思ったら、ぜひしてみたいと思います!そして陽子先生のフラの動きがとても綺麗でした。たった1時間半のレッスンだったけれど、何種類かの動きを学ぶことが出来てよかったです。腰を回す動きはダイエットにもなると聞いたのでぜひ!したいと思います。ハワイに来て一度はしたいと思ったフラを今日できて本当に良かったです。	全世代から愛されていて	全世代から人気の高い	年代を問わない踊り	身体的気付き	
		気軽に楽しめる	簡単なもの	短期間で習得可能		
		簡単だと思っていたけれど、実際はその逆	一長一短ではできない	動作が身につくまでは、時間がかかる	身体的気付き	
		自然な笑顔	心地よい笑顔	本物の笑顔		
		フラの力ってすごい	魅力がある	幸福感		
		フラをしている女性は魅力的で綺麗	女性としてのあこがれ	動作の美しさ	女性らしさへの憧れ	
		1度はしたいと思ったフラ	あこがれのフラ	ハワイを代表する踊り		

ストーリーライン	フラは全世代から人気があるため、簡単な舞踊だと思っていた K は、フラを学び、ダンサーを見たことで、身体的技術が必要なことに気付き、女性ダンサーへの賞賛とあこがれを持つようになる。
理論記述	レッスンにおける学習者の身体的な気付きが、女性らしさへのあこがれとなる。

(表4) 教育現場でフラが扱われた場合の発話 S C A Tデータ資料

2011年6月28日 13:30-15:30 A 高等学校 2学年 ハワイ研修

後日行われることになっている感謝の会にてお披露目するフラの練習をアラモアナビーチパークで行う。
このフラは、2ヵ月半お世話になった方々への生徒の御礼の気持ちを伝えるためのものである。

	テキスト	注目すべき語句	言い換え	テキスト外概念	テーマ	疑問・課題
S	午後はフラをしました。まだまだ下手くそだけれども、昨日よりは少し成長していると感じることができました。膝を曲げること、手をしっかりと伸ばすこと、そしてスマイル!一つずつ意識しながら練習をしたいと思います。	下手くそ	未熟	練習の必要性	学習の継続性	下手と下手くその違いは?
		少し成長している	少しずつの進歩	練習の効果		どんな成長?
		膝を曲げる ことと手を しっかり伸 ばすこと、そ してスマイル!	関節部位と 笑顔への意 識	「腰」以外の 身体への気 付き	身体的気付き	どの部位に 気を遣う?
		一つずつ意 識	気を抜かな い	細部にわた る気付き		
K	午後はフラの練習をしました。踊りは大変だけれども自分の精一杯の力を出して踊り、そしてまだまだ自分の顔の表情が固いので、笑顔で踊れるようにしたいです。私たちのフラを見てみんなが幸せな気持ちになってくれることを願っています。	精一杯の力 を出して	怠けること なく	積み重ね	学習の継続性	
		表情が固い	無表情	感情表現	学習の継続性	
		みんながハ ッピーな気 持ちになっ てくれる	自分のフラ で他人を幸 せにする	感動を伝え る	幸せの分配	

ストーリーライン	ホストファミリーへの感謝の気持ちを表したい生徒たちは、学習・練習することで進歩することを知り、初めてフラを学んだときよりも、身体的気付きの範囲が広がっている。そして、フラが心の表出であることに気付く。
理論記述	フラは身体的気付きとその学習の上に成り立つ。 フラは心の表出であり、踊り手は、フラを通して相手に気持ちを分け与えることができる。

(表5) 教育現場でフラが扱われた場合の発話 S C A T データ資料

2011年7月3日 11:00-14:00 A 高等学校 2 学年 ハワイ研修

Farewell Party において、生徒たちのフラが披露された。ホテルの庭をステージとし、研修中にお世話になったフラハーラウ(教室)からいただいたTシャツとパレオを用意した。生徒たちは、初めて巻くパレオにとまどっていた。パレオは、「先生に結んでほしい」という要望から、引率者が結んだ。フラにおいて、コンペティションやショーに出る生徒の身だしなみの仕上げ(花飾りをつける、衣装をまとわせる等)を指導者がすることはよくある。ティアレの髪飾りも生徒たちは喜んでつけていた。

	テキスト	注目すべき語句	言い換え	テキスト外概念	テーマ	疑問・課題
K	パーティでは、今まで研修してきたフラを踊りました。緊張もしたけど、これまでの感謝の気持ちを込めて、一所懸命踊りました。踊っているときは、無我夢中で分からなかったけど、踊り終わったら、自然に笑顔になっていたのに気付きました。フラってすごい。フラは、難しいし、まだまだできないけれど、今回踊ることができてよかったです。ホストファミリーにも褒められました。みんなで、練習して、みんなで踊ったことがすごく思い出に残った。みんなに、私たちの感謝の気持ちが伝わってればいいな。	感謝の気持ち	どうしても伝えたい気持ち	御礼	感情の吐露	どんな感謝?
		一所懸命	踊ることへの集中	一心に	感情の吐露	
		無我夢中		学習の継続性		
		自然に笑顔	本当の笑顔	心の表象		
		フラってすごい	フラの魅力	幸福感		
		ホストファミリーにも褒められた	一番伝えた相手からの言葉	フラを踊った理由		
伝わってれば	伝わってほしいという願望	伝えるために踊る				

ストーリーライン	ホストファミリーをはじめ、お世話になった方々へ感謝を伝えることが、Farewell Party の目的であった。自然に笑顔が出てくるような、思いを伝えるのがフラである。
理論記述	感情吐露のひとつのあり方として提示できる

Learning of Traditional Culture Through Hula in Schools

*Yoko AZUMI

* Graduate School of Educational Informatics / Research Division, Tohoku University

ABSTRACT

The following study focuses on the statements of high school aged learners of hula. The purpose of this study is to reveal what can be learned through the context of learning traditional culture (hula) in schools. In addition to this research, I attended hula classes in order to gather data on participant observations, and conduct open-ended interviews (Kitamura, 2005) with learners. As for my analysis, I took up the method of SCAT (Otani, 2008), and created various categories from my data using methods from Kitamura (2005). As for the learners of hula, the study revealed that through hula, they believe that they gained insight about "Physicality", "learning perspectives" and "Expression of feeling". It was made clear to me that even within a limited time frame, it is possible to properly learn about hula at a school in Japan.

Key words: Hula, Learning, Traditional Culture, Education, Qualitative analysis,